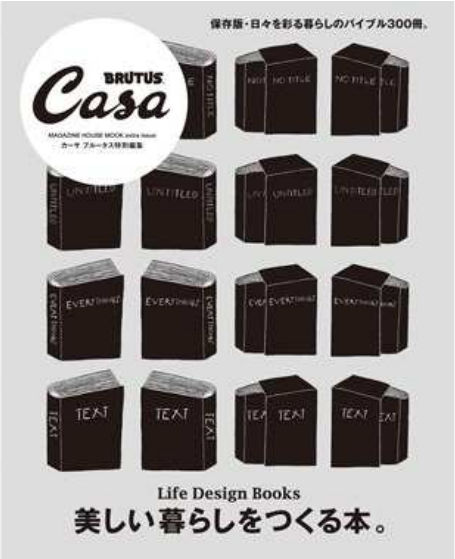
その本はそこに　読書案内 17　　～ 300 冊の本の世界 ～

CASA BRUTUS　美しい暮らしをつくる本　Life Design Books　❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖



本の本には、つい手が伸びてしまいます。
建築家の中村好文さんが改装した静岡県の民宿「かいとく丸」の中のライブラリー（下部掲載の写真）に魅かれました。
その中村好文さんが選ぶ、家について考える８冊は、

１、「住み方の記」西山 夘三（にしやまうぞう・建築家）
２、「わたしの家―痕跡としての住まい」　柏木 博（デザイン評論家）
３、「地球家族」　マテリアルワールド・プロジェクト
４、「私の住居・論」　林 昌二（建築家・日建設計）
５、「父の縁側、私の書斎」　壇 ふみ（女優・エッセイスト）
６、「建築有情」　長谷川 堯（建築評論家）
７、「住まいの手帖」　植田 実（建築専門編集者）
８、「住宅読本」　中村 好文

１、は西山さんが自らの住まいの歴史を語っていく本で、平屋の日本家屋に始まり、近代的な集合住宅での生活など。たくさんのイラストで、家具や日用品の配置、家族の動き方まで、当時の生活の様子がわかります。
２、も、物と家の関係で、物は住み手を鏡のように映しだし、物によって、家はその人の住まいになるといいます。
３、は家の中のものをすべて「家の外に出して撮る」というプロジェクト、報道写真家による写真集です。
４、は林さんの極めて私的で具体的な論で、住宅設計の道を歩む中村好文さんのバイブルだそうです。
５、は家を建てたい人には、真っ先にこの本を読むことすすめるそうです。（住宅の土間・縁側についてなど）
６、はこれまで何人もの人にすすめ、プレゼントしてきた本だそうです。（暖炉・縁側・出窓・アプローチなど）
７、はひとつの部分・シーン（たとえば椅子一脚）から立ち上がる物語 60 編。
８、は住まいという暮らしの場に広がる世界の、広くて奥が深く面白いと伝えたい本。
そのほか、話題は多岐にわたりますが、プロダクトデザイナー深澤直人さんのバイブルが、強制収容所に収監された経験のある彫刻家の作品集だったり、ポールスミスのバイブルが、メキシコの建築家ルイス・バラガンの作品集で、一番のヒーローが建築家のカルロ・スカルパだったりします。

❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖